

元・東電副社長が 伝えたいこと。

2011年3月11日。
当時私は小学2年生でした。

あの日何が起こったのか。
何が悪かったのか。

東北で学び、暮らす者として、
東日本大震災は自分とは関係のない
どこかのまちの出来事にはできない。

原発事故の時、災害対応、被災者支援、
賠償などの責任者として
東京電力副社長・福島復興本社代表に
就任した石崎芳行さん。

今回東北大学でお話をしてくれないかと
お願いしたところ、
「喜んでお受けします。出来れば直接
皆さんの前でお話できれば幸いです。」
と快く引き受けてくださいました。

誰もが混乱の中にいた事故直後。
ここにいて安全なのか、大切なひとを守れるのか、
不安と混乱の中で人々は暮らしていました。

そんな中で石崎さんは、
住民の皆さんに謝罪と説明を重ねましたが、
わからないから、怖いから、誰かを守りたいから、
みんな厳しい言葉を向けてしまいます。

世のため人のため。
石崎さんは、みんなの便利な生活を支えたい
と思って東電に入社されたのに、
謝らなければならない立場になってしまった。

しかしそもそも、原発事故の責任は、
本当に「東電の人間」だけにあるのだろうか
私は思います。

生活するにも、物を作るにも欠かせない電力。
それを誰が、どう支えていくのか。
石崎さんと一緒に考えてみませんか。



ゲスト：石崎芳行
(いしざき よしゆき) さん
震災当時、東京電力代表執行役副社
長、福島復興本社代表を務められ、
現在は東日本国際大学 福島復興創世
研究所 副所長・客員教授を務められ
るなど、活躍の幅は多岐にわたる。

日時：5月10日(土) 13:00-15:30
会場：東北大学 川内北キャンパス B201
主催：東北大学
高度教養教育・学生支援機構
大学院理学研究科

お申し込みはこちら



締切：5/9(金)